

# 人口減少社会における移住定住施策の実施 若手職員政策創造プロジェクトチームによる取組



日高市政策秘書課 長岡 篤史

## 1 はじめに

日高市は、首都40Km圏に位置し、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）、国道、県道が縦横に通り、鉄道はJR八高線・川越線と西武池袋線が乗り入れ、地域の特性を生かしたまちとして発展しています。

令和3年度を計画の始期とする第6次日高市総合計画前期基本計画におけるリーディングプロジェクトに「第2期日高市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を位置付け、地方創生と人口減少対策を重点的に取り組んでいます。

さらに、人口減少対策の取組として若手職員の斬新かつ柔軟な発想力を生ずために「若手職員政策創造プロジェクトチーム<sup>1</sup>」（以下「若手PT」という。）を設置し、市の魅力を効果的に発信し移住定住につながる取組を進めています。

本論は、令和3年度に若手PTが取り組んだ人口減少社会における移住定住施策についてまとめたものです。

図表1 日高市位置図



（出典：日高市ホームページ「企業誘致ガイド」(<https://www.city.hidaka.lg.jp/soshiki/toshiseibi/toshikeikaku/keikakusuishinkigyoyouchijyuutakuseisaku/kigyoyuuti/1476.html>)

## 2 現状分析

### (1) 将来人口推計

国勢調査に基づく人口は、平成22年（2010年）の57,473人をピークに減少傾向となり、平成27年（2015年）は56,520人、令和2年（2020年）の人口速報では54,591人と減少が続いています。国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の国勢調査を基にした将来人口推計によると、令和7年（2025年）には53,263人、令和12年（2030年）には50,718人と人口減少が一層進むと見込まれています。

図表2 2060年までの年齢4区分別将来人口見込み  
【日高市全域】

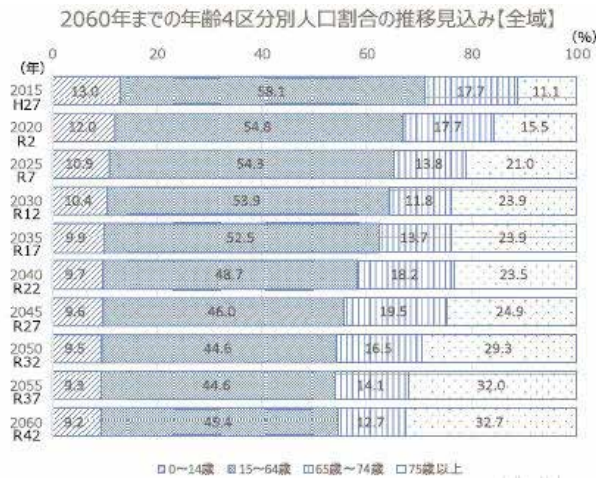


（出典：日高市（2021年）「第6次日高市総合計画」）

また、年齢別の構成割合を見ると、平成27年（2015年）時点では、年少人口（0歳から14歳）が13.0%（7,342人）、生産年齢人口（15歳から64歳）が58.1%（32,858人）、老年人口（65歳以上）が28.8%（16,320人）となっています。さらに、社人研の将来人口推計によると、令和12年（2030

年)には、年少人口割合が10.4%、老年人口割合が35.7%と少子高齢化が更に進むと見込まれています。

**図表3 2060年までの年齢4区分別人口割合の推移見込み【日高市全域】**



(出典：日高市(2021年)「第6次日高市総合計画」)

## (2) 人口減少の詳細分析

人口減少について住民基本台帳を基に人口動態を分析すると、社会動態は平成29年度(2017年度)から令和元年度(2019年度)までは転出者数より転入者数が多い社会増となっていますが、令和2年度(2020年度)は社会減となっています。

社会動態の背景として総務省統計局が公表している「住民基本台帳人口異動報告」から平成30年(2018年)及び令和元年(2019年)の市別流入・流出人口を見ると、本市に乗り入れている鉄道沿線自治体及び東京都から当市への転入者が一定数います。

**図表4 日高市における市別流入・流出人口**

都道府県 市区町村	平成30(2019)年			令和元(2019)年			流入数前年差		流出数前年差	
	転入	転出	転入-転出	転入	転出	転入-転出	H30→ R1	H30→ R1	H30→ R1	H30→ R1
総計	1,742	1,711	31	1,692	1,690	▲ 6	▲ 50	▲ 12		
県外	1,045	1,049	37	1,019	969	49	▲ 27	▲ 19		
川崎市	173	114	59	155	100	▲ 25	▲ 15	▲ 16		
所沢市	72	50	22	61	58	3	▲ 1	▲ 5		
墨田区	168	171	▲ 3	129	117	12	▲ 19	▲ 64		
八王子市	85	101	▲ 16	102	96	6	▲ 7	▲ 16		
入船町	76	14	▲ 62	66	5	▲ 61	▲ 9	▲ 18		
その他	414	419	▲ 5	514	455	49	▲ 41	▲ 21		
県内	697	717	▲ 20	673	720	▲ 47	▲ 23	▲ 21		
鎌倉市	19	21	▲ 2	19	34	▲ 24	▲ 3	▲ 12		
横濱市	16	21	▲ 5	29	16	▲ 6	▲ 4	▲ 1		
八王子市	19	16	▲ 3	17	14	▲ 3	▲ 2	▲ 7		
その他	662	645	▲ 17	632	665	▲ 34	▲ 20	▲ 21		

(出典：日高市(2021年)「日高市人口ビジョン」筆者一部加工)

また、自然動態については、平成18年度(2006年度)以降、出生者数の低下と死亡者数の増加から自然減が拡大傾向にあり、令和2年度(2020年度)は出生者数277人に対して、死亡者数638人の自然減(▲361人)となっています。

自然動態の背景として合計特殊出生率の推移を見ると、本市は平成11年(1999年)以降、年による変動があるものの概ね1.13前後で推移しています。一方、全国では、平成11年(1999年)から平成30年(2018年)までの平均は1.37、埼玉県では1.29であり、本市の合計特殊出生率は、全国及び県を下回る状況が続いています。

**図表5 合計特殊出生率の推移(全国/埼玉県/日高市)**



(出典：日高市(2021年)「日高市人口ビジョン」)

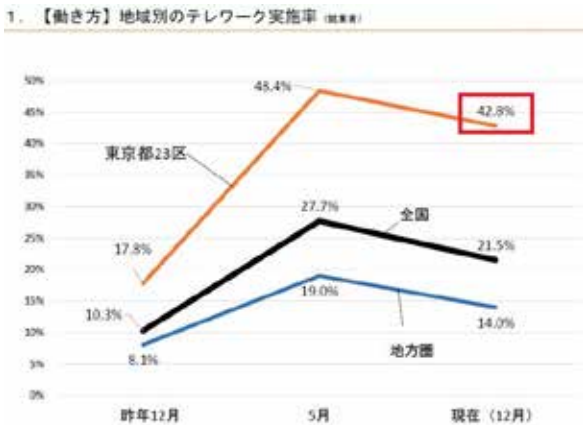
## (3) 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、東京都の人口は、令和2年7月から8か月連続で転出超過が続いており、転出超過数とほぼ同数の転入超過が隣接県においてみられますが、当市においては、社会増減が概ね均衡しています。

また、令和2年12月11日～12月17日に内閣府が実施したインターネット調査「第2回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」において、図表6「東京23区におけるテレワークの実施率」は令和元年12月時点17.8%が令和2年12月42.8%と1年間で急増していること、図表7「地方移住への関心理由(東京圏在住で地方移住に関心のある人)」においては、「人

口密度が低く自然豊かな環境に魅力を感じたため」が28.8%、「自然豊かな環境においてもテレワークによって地方でも同様に働けると感じたため」が24.1%となっています。

図表6 東京23区におけるテレワーク実施率



(出典：内閣府（2020年）第2回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査)

図表7 地方移住への関心理由



(出典：内閣府（2020年）第2回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査)

### 3 ターゲット層と実施事業の方向性

#### (1) 移住定住施策のターゲット層

現状分析から、年少人口及び生産年齢人口が減少していることや本市に乗り入れている鉄道沿線自治体からの転入者がいること、新型コロナウイルス感染症の影響により東京都から首都圏内の自治体への移住動向があることから本市の強みである「豊かな自然環境」、「都心からのアクセスに恵まれている」

ことを生かすことができます。

これらのことから、主なターゲット層を東京都内在住の子育て世帯とします。

#### (2) 実施事業の方向性

移住や住宅の購入を検討している東京都内在住の子育て世帯に向けて情報を発信することで本市を認知してもらい、移住定住の候補地となるように以下の事業を実施します。

- ①電車内モニターにおいて動画広告を放映
- ②移住定住パンフレットを作成
- ③移住定住ポスターを作成
- ④市ホームページに移住定住特設ページを公開

### 4 若手PT実施事業

若手PTは、採用3年目までの22歳から30歳までの職員9人（男4人、女5人）で構成された単年度のプロジェクトチームであり、リーダーが中心となり活動をしています。5月下旬から活動を始め全体で6回程度、その他にも必要に応じて個別に集まり活動をし、最終結果報告を市長に行います。また、事務局は、地方創生や人口減少に係る事業の取りまとめをしている政策秘書課が担当しています。

図表8 活動の様子



(出典：日高市撮影)

事業の実施に当たり、本市の現状分析と魅力（強み）を確認し、ターゲット層である子育て世帯に対してどのようなコンセプトを持って一連のプロモー

ションを実施していくか検討をしていきました。

その結果、都内への通勤や通学も十分可能であり、豊かで美しい自然とともに暮らせる環境の中で子育てができることから「ちょうどいい生活を送れる」の「ちょうどいい」を英訳し、「Just Right! ひだか暮らし」をコンセプトにしました。

さらに、「Just Right! ひだか暮らし」のロゴマークを制作し一連の事業を展開しています。

図表9 若手PTが作成したロゴマーク



(出典：日高市)

### (1) 電車内モニターにおいて動画広告を放映

平成30年度に制作し、「第1回日本国際観光映画祭」の旅ムービー部門で最優秀賞を受賞した「大人になっても遠足したい！行こう！遠足の聖地へ！」をベースに、音声のない電車内モニターにおいて当市で生活する魅力を15秒の動画で伝える構成としています。

市外から多くの観光客が訪れる巾着田曼珠沙華まつり<sup>2</sup>の開催時期に合わせて、西武鉄道株式会社の普通列車（9月中旬）と特急列車ラビュー（7月から9月まで）の電車内モニターにおいて動画広告の放映を行いました。

図表10 電車内モニター動画広告放映



(出典：西武鉄道株式会社撮影)

### (2) 移住定住パンフレットを作成

パンフレット配布のターゲット層は、事業全体のターゲット層である東京都内在住の子育て世帯からもう少し絞り、東京都内在住の子育て世帯の女性としました。パンフレットは、A5サイズとし女性が手に取ってパラパラとめくり読みをし、バッグに入れて家に持ち帰り、家族ともう一度読み直してもらうことを考慮して作成しました。

パンフレットの表紙の写真は、太平洋セメント引き込み線跡地を活用した遊歩道「ポッポ道」（愛称）を、家族で「明日は何をして遊ぼうか？」と談笑しながら帰宅する子育て世帯の日常をイメージしたものとしています。

パンフレットの構成は、移住者インタビュー、子育て支援、移住者支援、観光、グルメなどを紹介するものとなっており、ページ内に配置したQRコードから市ホームページを閲覧することにより、詳しい内容を知ってもらえる仕組みとしています。

パンフレットは、東京都千代田区有楽町にあるふるさと回帰支援センターや包括連携協定を締結している金融機関の都内支店、市内の観光スポット等に配架しています。

図表11 パンフレット「Just Right! ひだか暮らし」



(出典：日高市（2021年）「Just Right! ひだか暮らし」)

### (3) 移住定住ポスターを作成

移住定住ポスターは、パンフレットの表紙と合わせた写真を使うことで統一感を持たせ、「暮らし」というワードを目立たせることで、目にした人がこのポスターからそれぞれの家族のありふれた日常の暮らしを感じとってもらえることを狙いとしています。

図表12 ポスター「ひだか暮らし」



(出典：日高市撮影)

図表13 市ホームページ内の移住定住特設ページ



(出典：日高市ホームページ「Just Right! ひだか暮らし」

([https://www.city.hidaka.lg.jp/hidaka\\_life/index.html](https://www.city.hidaka.lg.jp/hidaka_life/index.html))

#### (4) 市ホームページに移住定住特設ページを公開

新たに市ホームページ内に移住定住に特化したページを作成し、移住定住検討者が当市での生活をイメージできるように必要な情報をまとめました。

また、パンフレットやポスターに掲載しているQRコードから閲覧した場合にはどのQRコードから閲覧したかを特定することができ、今後の効果検証に役立てることができる仕組みとしています。

## 5 おわりに

若手PTは、限られた活動期間の中、各配属先での業務に従事しながら人口減少対策における移住定住に関する取組を行ってきました。

市では、今回の若手PTの斬新かつ柔軟な発想力を生かした事業を展開するとともに、地方創生と人口減少の抑制を図るための更なる事業を実施し、第6次日高市総合計画で定める令和7年(2025年)の人口53,400人とすることを目指します。

## 脚注

- 1 人口減少対策や地方創生に関する研究等を行い、市が持つ魅力や地域資源等を、広く市内外に向けて効果的に発信する取組について検討・事業実施をするため、斬新かつ柔軟な発想力が期待される入庁3年目までの職員を対象とした、有志により結成されるチーム。
- 2 9月中旬から下旬に、清流高麗川に囲まれた巾着田曼珠沙華公園の雑木林の中に咲き誇る500万本の曼珠沙華の開花に合わせて開催するまつり。なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。

## 参考文献

- ◎日高市(2021年)「第6次日高市総合計画」
- ◎日高市(2021年)「日高市人口ビジョン」
- ◎日高市(各年)「統計ひだか」